

海洋開発特別講演会 in 横浜 – 港と海の発展の歴史

土木学会海洋開発委員会では、海洋開発特別講演会を平成 21 年 6 月 28 日（日）に横浜開港記念会館で開催することになりました。この海洋開発特別講演会では海の防災・環境・利用に関する各方面の関係者による講演を企画しており、6 月 29 日（月）と 30 日（火）に行われる第 34 回海洋開発シンポジウムのプレイベントともなるものです。

本年は横浜開港 150 周年にあたるため、講演会では港と海の発展の歴史と題して、横浜港及び東京湾を含め、幅広く歴史的な視点からこの魅力的な港や海について学ぶ機会としたいと考えております。海洋開発シンポジウムに参加する技術者・研究者はもちろん、多くの市民の皆様参加を期待しております。

土木学会海洋開発委員会

日時： 平成 21 年 6 月 28 日（日）（13 時 15 分から 17 時 15 分）

内容：

13:15-13:25	開会挨拶	講演会の趣旨説明	海洋開発委員会 委員長 高橋重雄
		後援団体挨拶	横浜市港湾局 局長 川口正敏
13:25-14:10	東京湾の生い立ち	昔 東京湾は川だった -	元立正大学地球環境科学部 教授 菊地隆男
14:10-14:55	横浜の開港と発展	埋立てがなかった横浜 -	横浜開港資料館 館長 高村直助
15:05-15:50	東京湾における海の技術	海への発展を支えた技術 -	横浜国立大学 名誉教授 柴山知也
15:50-16:20	横浜港・象の鼻パークの整備について		横浜市港湾局 港湾整備部長 下村 直
16:20-17:05	東京湾の現状と将来	大都市圏の海洋空間 -	国土交通省関東地方整備局 副局長 梅山和成
17:05-17:15	閉会挨拶		海洋開発委員会 幹事長 関本恒浩

場所： 横浜開港記念会館 横浜市中区本町 1-6 （みなとみらい線日本大通り駅 1 番出口より 1 分）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/naka/kaikou/>

参加者・参加費： 自由・無料

主催：土木学会海洋開発委員会(CPD プラザ) 後援： 国土交通省関東地方整備局・横浜市港湾局

登録： 座席に余裕がある場合には当日参加が可能です(定員約 300 名)。

ただし、座席と配布資料の確保のためホームページで事前登録いただければ幸いです。

http://www.jsce.or.jp/committee/ocean/special_seminar2009.html (土木学会海洋開発委員会で検索してください)

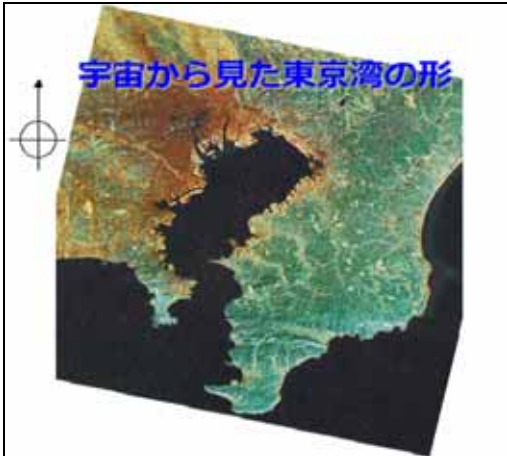


横浜開港資料館蔵

東京湾の生い立ち

昔 東京湾は川だった 菊地隆男

下の図は宇宙から見た東京湾の姿です。海岸線は人工的な埋立地のため本来の形とは変わっていますが、その輪郭にかろうじて面影が残されています。ところで、東京湾はなぜこのような形をしているのでしょうか。東京湾の歴史をおよそ300万年前までさかのぼり、その生い立ちを探ってみましょう。



横浜港・象の鼻パークの整備について

下村 直

横浜市では開港150周年記念事業として、横浜港発祥の地に「象の鼻パーク」を本年6月2日（開港記念日）にオープンいたします。当地をめぐる経緯と整備内容についてご報告します。なお象の鼻パークは横浜開港記念会館から300mほどの至近ですので、シンポジウム前後にお寄り頂ければ幸いです。



東京湾の現状と将来

大都市圏の海洋空間 - 梅山和成

東京湾は、150年前の横浜港開港以来、国際物流の最前線であるとともに、戦後は、臨海型産業や都市機能の整備、羽田空港の沖合展開などが進められ、首都圏の経済や生活を支えてきました。一方、湾口の狭い閉鎖性の東京湾では、環境問題が生じています。この機会に、東京湾の役割や課題、将来像について改めて考えてみませんか。

横浜の開港と発展

埋立てがつくった横浜 - 高村直助

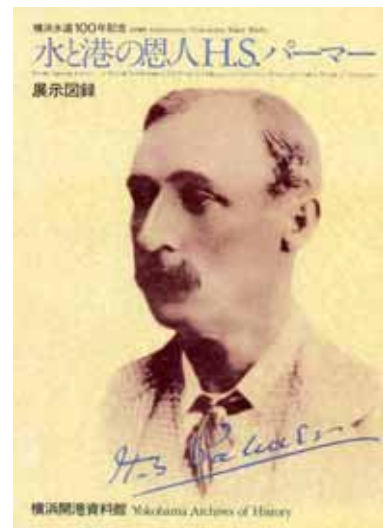
遠く江戸時代初期の農地の造成に始まり、幕末開港に際しての外国人居留地の拡張、外国貿易拡大に伴う港湾施設の整備、さらには重工業化を目指しての工業地帯の造成に至るまで、横浜の歴史的発展の先端を担ったのは海の埋立てであった。



東京湾における海の技術

海への発展を支えた技術 - 柴山知也

横浜築港の歴史は1858年の「象の鼻」突堤基部の着工に始まります。その後1889年～1896年の第一次築港、さらには戦後の拡張期などにそれぞれの時代の最先端の技術で建設されてきました。下の写真は、日本に新しい港の技術をもたらしたパルマー技師です。横浜港の歴史を当時の最先端の技術とともに辿ります。



横浜開港資料館資料

